

さいたま市に点在する

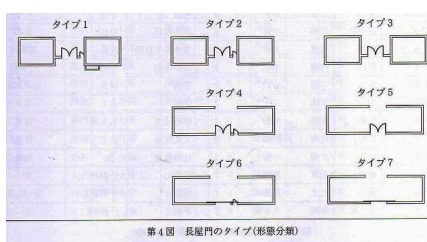
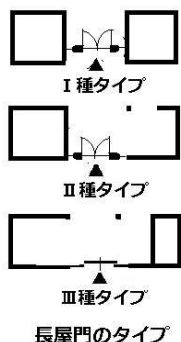
## 長屋門を調査する

植木秀視

### 長屋門のタイプ

長屋門の姿は、大きく分けると三種類になります。

一つは、ほぼ中央に観音開き戸の入口があり、その部分が凹状になっているタイプ。二つ目は、観音扉はあるが入口部分はフラットな形状のタイプ。三つ目は、入口部分はフラットで扉は引き戸のタイプ。長屋門の入口は（大きく分けて）この三つに分類できますが、この他「大宮の長屋門」での分類もあります。



大宮の長屋門より

### 一つの村に長屋門が数軒

江戸時代には、長屋門が建てられる資格のある位の方は、武士や名主（庄屋）、そして村に貢献した家などでした。始めは不思議に思っていたのですが、調べて見ると一つの村には何軒も名主を務めた家があり、長屋門も数軒あるところもあるのです。

緑区で古い長屋門は、名主を務め市の文化財となっている会田家の建物が、江戸時代の00年がありますが、その他、0000になり明治以後のものがほとんどなのです。

### 長屋門をスケッチ 個展とツアー

意識して緑区や他の区にもある長屋門を見てみたくなり、カメラとスケッチブックをもってその日のターゲットを絞り出かけました。

家の人に声をお掛けし、写真撮影の許可を頂き、自宅に帰ってから絵を起こしました。



長屋門の個展

スケッチの枚数も多くなったので個展を開こうと思い、知り合いの新聞社に声を掛けたところ、新聞社の（お）勧めもあり見沼たんぼガイド会とのコラボで、長屋門の個展とツアーを開催することになりました。

個展を見てくれた方や興味のある方が、20数人（応募して下さり）、秋の快晴の日にツアーに出発しました。



長屋門を見学するツアー

### 長屋門が消えてゆく

スケッチをしているうち、これはなかなか価値のある建物だと思ふようになりました。そこで市の文化財課に古民家や長屋門などを保存、支援などを行っているのかを尋ねてみました。

予算のこともあり手が回らないとのことでした。

長屋門の所有者の方は、保存は行政に頼らず、自分の力で維持してゆくという考えの方が多ようです。

しかし見て回ると、古くは江戸時代に建てられ2百数年も経ていることから、建物は歪み、木材も朽ちて、壁や瓦は滑落しているなど相当傷んでいるものもありました。中には修理もままならず、そのまま風雨に晒されている建物もあり、痛々しくも歯がゆい思いで拝見しました。

### 長屋門が消えた！

長屋門の所有者に今後のことをお聞きすると、自分の代では先祖から受け継いだ財産だからなんとか維持管理し使っていきたいとの考えでした。しかし代替わりの段階ではどうなるか判りません。若い世代は、先祖から引き継いだという思いはあまりなく、時代に合せ経済の価値観で判断するかもしれません。

実際、ついこの間見に行った長屋門は解体され、敷地はきれいサッパリを更地になっていました。

残念。分かっていたらもう少し調べたいところもあったのに、時、すでに遅しでした。



右側の長屋門があったお屋敷がアツという間に更地になってしまった。